

JAMA NEWS

NO. 32

The Japanese Association of Management Accounting

日本管理会計学会

次期会長に 浅田孝幸氏選出

2010年度年次全国大会期間中に実施された会長選挙の結果、浅田孝幸氏(大阪大学大学院)が次期会長に選出されました。

理事選挙結果

2010年度年次全国大会期間中に実施された理事選挙の結果、次の40名が選出されました。(敬称略)

青木茂男 (茨城キリスト教大学)
李 健泳 (新潟大学)
石崎忠司 (中央大学)
伊藤和憲 (専修大学)
伊藤嘉博 (早稲田大学)
井岡大度 (国士舘大学)
今林正明 (目白大学)
大下丈平 (九州大学大学院)
大島正克 (亜細亜大学)
尾畑 裕 (一橋大学)
片岡洋一 (目白大学)
加登 豊 (神戸大学大学院)
河合 久 (中央大学)
菊井高昭 (上智大学)
小菅正伸 (関西学院大学)
小林啓孝 (早稲田大学大学院)
昆 誠一 (九州産業大学)
佐藤紘光 (早稲田大学)
清水 孝 (早稲田大学)
清水信匡 (早稲田大学)
白銀良三 (国士舘大学)
鈴木研一 (明治大学)
園田智昭 (慶應義塾大学)
田中雅康 (東京理科大学)

長坂悦敬 (甲南大学)
長屋信義 (産能大学)
長谷川泰隆 (麗澤大学)
河 榮徳 (早稲田大学)
浜田和樹 (関西学院大学専門職大学院)
平岡秀福 (創価大学)
星 法子 (白鷗大学)
水野一郎 (関西大学)
宮本寛爾 (大阪学院大学)
門田安弘 (目白大学)
山下裕企 (東京理科大学)
山田庫平 (明治大学)
山本正彦 (愛知東邦大学)
横山和夫 (東京理科大学)
吉岡正道 (東京理科大学)
吉村 聡 (流通経済大学)

総会の承認による理事の選任

役員選任規程第8条により2010年度会員総会において会長および副会長の5名が次期理事に選任されました。(敬称略)

会 長 辻 正雄 (早稲田大学)
副会長 上埜 進 (甲南大学)
小倉 昇 (筑波大学)
崎 章浩 (明治大学)
原田 昇 (東京理科大学)

監事の選任

役員選任規程第11条により2010年度会員総会において次の3名が次期監事に選任されました。(敬称略)

小宮山賢 (あずさ監査法人)
鈴木浩三 (東京都水道局)
廣瀬哲夫 (日本公認会計士協会)

副会長・常務理事等の選任について

副会長、追加の理事および常務理事は、2011年3月19日(土)に専修大学で開催予定の「みなし理事会」において選任されます。「みなし理事会」では、最初に、次期会長により、副会長(4名以内)の選任および理事の追加選任(10名以内、うち大学関係者7名以内、実務家3

名以内)が提案され審議されます。

次に、次期常務理事を、2010年度年次全国大会時に選出された理事の中から投票によって上位15名選出します。さらに、次期会長から常務理事の追加選任(5名以内、うち大学関係者3名以内、実務家2名以内)が提案され審議されます。

新役員の構成は、学会誌『管理会計学』またはJAMAニュースに掲載します。

2010年度年次全国大会記

青山学院大学 矢内一利

統一論題 コントロール機能としての管理会計

日本管理会計学会2010年度年次全国大会は、早稲田大学を会場として、2010年9月3日(金)から5日(日)において開催された(大会準備委員長:佐藤紘光氏)。大会の構成は、自由論題報告、記念講演会、統一論題報告、および統一論題シンポジウムであった。大会参加者は総勢308人であった。1日目は学会賞審査委員会、選挙管理委員会、常務理事会、理事会が開催された。2日目には会員懇親会が開催され、非常に多くの参加者があり盛会であった。

〈自由論題報告〉

2日目と3日目の午前中には、自由論題報告が行われた。自由論題報告では、総勢55名による44件の報告が行われた。このうち、2日目午前中に6会場で23件、3日目午前中に6会場で21件の報告が行われ、報告者とフロアの間で活発な議論が展開された。

〈記念講演会〉

2日目の午後には、伊藤嘉博氏(早稲田大学)を司会として、貫井清一郎氏(アクセンチュア株式会社)により、「企業経営におけるコントロールと管理会計の役割」というテーマで記念講演が行われた。

貫井氏は、管理会計のユーザーである経営管理者のコントロールという観点から、ストラテジーエクセレンスにおいて一番重要な力がコラボレーション力であることを、まず指摘された。その上で、コラボレーションを促進するための「共通言語」、「将来情報」、「コミットメント」といった要件に対し、ルール・ロジック・プロセスの標準化などが管理会計に要求されていることを指摘された。また、アクセンチュアの近年のレポートによって、日本企業において、CFOは価値創造を推進させる戦略的業務へ多くの時間を費やそうとしていることなどを指摘されたのちに、財務・経理の人材確保と育成に向けた取

り組みの実態を示された。

以上を踏まえて、貫井氏は、今後の企業の成否を握るのは「(広義の)システム」と「人材」であり、これらに対して産学協同が果たす役割は大きいとまとめられて、報告を終了された。

〈統一論題報告〉

記念講演会に引き続いて、原田昇氏(東京理科大学)を座長として、「コントロール機能としての管理会計」というテーマのもとで、鈴木孝則氏(早稲田大学)椎葉淳氏(大阪大学)、関口善昭氏(SAPジャパン株式会社)、大下丈平氏(九州大学)の4名による統一論題報告が行われた。

第1報告の鈴木氏の「内部統制報告制度における情報システムの意義」では、多くの企業で内部統制の整備・運用の一環としてITの投資が活発であることなどの背景を踏まえた上で、プリンシパル・エイジェントモデルを用いて、監査コスト基準が特定の値未満であれば、正の統制努力によって営業努力の私的コストが通常以上になっても、株主に正の期待利得を与えるような均衡が存在することをまず示された。そして、その均衡の持つ性質のうち、顕著な特徴が期待されるものに関して行った比較静学分析の結果、企業に導入されている各種情報システムのノイズに極端な差異がないとすれば営業情報システムへの投資を先行させることが無難であることなどを示された。これらの結果により、実務の現状を説明(あるいは予想)している可能性のあるいくつかの知見を得られたとして、鈴木氏は報告を終了された。

第2報告の椎葉氏の「比較会計制度分析: コントロール機能の一つの分析視角」では、考察対象とする経済システムに会計に関する制度が含まれ、かつ会計に関する制度が含まれた経済システムを考察する際に生じる独自性を考慮しているとき、そのような分析が比較会計制度分析となることをまず示された。次に、椎葉氏は対象と

する問題に対して企業組織において会計を含んだ複数の制度が利用されている場合、その相互関係を考慮して分析する必要がでてくることになり、ここに比較会計制度分析の重要性があると主張された。このような比較会計制度分析の研究例として、椎葉氏は経営者報酬契約と保守主義会計、組織間関係の強さとサプライヤー企業の業績などをあげられた。最後に、椎葉氏は今後の研究の研究視点として、研究者が注目する制度を中心に、それに関係する制度を同時に考慮して、その相互関係がパフォーマンスに与える影響について検証することをあげられた。また、今後の研究方法として、方法論としての「組織の経済学」に対する正確な理解を提案されて、椎葉氏は報告を終了された。

第3報告の関口氏の「性悪説に基づく内部統制の限界とIT統制の最新事情」では、企業の不正の対策は兆候を認識した上での早期発見と予防であるとまず主張された。その上で、人間は生まれながら弱い動物であり、“魔が差す”場合がありうるという“性弱説”に基づき、魔が差さない制度、プロセス、システムを構築し、従業員と家族を守るのが内部統制の本来の目的でなければならないと関口氏は唱えられた。次に、関口氏は、SAPによる最新のIT統制では、性弱説に基づいた魔が差さない仕組みを実現できてきていることを示された。さらに、関口氏はブッカンのコントロール論のフレームワークを踏まえた、リスク情報の一元管理、財務情報・非財務情報・リスク情報を関連する戦略とリンク付けすること、各戦略の各々の施策ごとの達成率・リスク量等を把握することなどを可能とするSAPの最新ソリューションを説明された。最後に、経営の意思決定や業績評価は管理会計の数字がベースであるので、その数字の正確性、信頼性、網羅性を担保する必要がある、それを支えるのが内部統制の役割の一つであると関口氏は指摘された。その上で、国際財務報告基準(IFRS)が適用されれば管理会計は「将来の」見通し情報に基づくことになり、経営管理指標と管理会計へのインパクトがでてくることが予想されることから、今後は内部統制に係る学会、諸団体と日本管理会計学会とのさらなる連携が必要になることを主張されて、関口氏は報告を終了された。

第4報告の山下氏の「ガバナンス・コントロールの理念と方法—内部統制論議を手掛りにして—」では、近年において、コーポレート・ガバナンスの一環として内部統制が世界的に法制化され、それに伴い内部監査の重要性が増していること、そうした内部統制の法制化を契機に伝統的なマネジメント・コントロールの領域でもリスク・マネジメントや価値創造の視点から新しいフレームワークの構想があることをまず述べられた。その上で、日・米・仏の国際比較を通して、伝統的なマネジメント・コントロールの仕組みである「下降3層構造(マネジメント・コントロール・監査)」と、内部統制を解して下降3層構造とつながりつつも、ガバナンス機構の規律付け・支援を行う「上昇3層構造(ガバナンス・内部統制・内部監査)」を抽出された。また、内部統制の制度化を契機に、コントロール・管理会計がガバナンスを規律付け、支援する仕組みをガバナンス・コントロールとして提案された。加えて、新たに制度化された内部統制こそ外から捉えられたコントロールや管理会計のシステムそのものであり、内部統制の制度化を契機にガバナンスのレベルにおいて、つまり社会的・公共的な視点からもこれらのシステムが活用される可能性が生まれたことを指摘した。最後に、現時点でわが国の政治・財政、経済、社会に持続可能性を与えるには、知識社会に適した技術革新と新しい産業構造の構築を目指し、経済、社会、政治のバランスの取れた市場社会の形成を進めるしかなく、こうした理念・方策を後押しするために、管理会計学・コントロール学からリスクと企業価値創造のマネジメントを支援する仕組みをガバナンス・コントロールの可能性を提案したとして、山下氏は報告を終了された。

〈統一論題シンポジウム〉

3日目の午後は、原田氏を座長として、鈴木氏、椎葉氏、関口氏、山下氏の4名をパネリストに、コメンテーターとして山本達司氏(名古屋大学)を迎えて、統一論題シンポジウムが行われた。山本氏は、2日目の各報告の要約と各報告に対する質問を述べられた。山本氏の質問に対する各報告者の解答が行われたのち、さらにフロア参加者による質問も行われ、活発な議論が展開された。

2011年度年次全国大会 開催校決まる！

2011年度年次全国大会が次のとおり決定いたしました。なお、詳細については追ってお知らせいたします。

- 開催校：関西大学
- 日程：2011年10月7日(金)～2011年10月9日(日)

学会賞決定!

特別賞、功績賞の審査委員会の審議の結果を受けて、2010年7月17日開催の常務理事会において、特別賞1名と功績賞1名が決定しました。2010年度会員総会の中で受賞式が行なわれ、辻正雄会長より賞状とたてが贈呈されました。おめでとうございます。

《特別賞》

門田安弘氏(目白大学)

《功績賞》

石崎忠司氏(中央大学)

論文賞、文献賞および奨励賞の審査委員会の審議の結果を受けて、2010年9月3日開催の常務理事会において、本年度の論文賞および文献賞が次の2氏に決まりました。2010年度会員総会の中で受賞式が行なわれ、辻正雄会長より賞状と金一封が贈呈されました。おめでとうございます。

《論文賞》

安酸建二氏(流通科学大学)

「コスト変動を通じて利益変動に影響を与える要因としての売上高予測の重要性に関する実証研究

ーコストの下方硬直性がもたらす利益への影響ー」『管理会計学』第18巻第1号、2010年1月、3～17ページ。

《文献賞》

大下丈平氏(九州大学大学院)

『現代フランス管理会計—会計・コントロール・ガバナンス—』中央経済社、2009年7月刊。

新入会員の紹介

- 正会員(敬称略)
10名入会
- 準会員(敬称略)
15名入会
- 賛助会員
5社入会

※JAMA NEWS No.31以降、2010年10月23日現在

日本管理会計学会広報 責任者：溝口周二 メンバー：伊藤和憲 河合久 成田博 櫻井康弘

発行機関：日本管理会計学会

—日本管理会計学会事務局—

《本部事務局》 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学商学学術院11号館1231号室

F A X : 03-5286-2087

E-mail : jama-info@list.waseda.jp

U R L : <http://www.sitejama.org/>